



研究調査報告

『ヨーロッパ近代生活絵引』編纂共同研究 ボーリュウのジョーリ

鳥越 輝昭
(非文字資料研究センター研究員)

「ヨーロッパ生活絵引編纂」共同研究グループでは、18世紀のヨーロッパ主要都市の公空間における生活の様子を探求している。公空間とは、広場・河岸・街路などを指している。わたくしが担当する都市は、ロンドン、ナポリ、ローマ、ヴェネツィアであり、研究の素材は、おもに当時描かれた絵画や版画である。

今回の短期の調査旅行では、18世紀にこれらの都市の公空間を描いた絵画・版画の原画の確認と図版の入手とを目的とし、各都市の美術館や版画販売店などを巡った。また、絵画等に描き出された場の現状を写真撮影することも、あわせて目的とした。

訪問した主な美術館等は、ボーリュウ・パレスハウス(英国ハンプシャー州)、ナショナル・ギャラリー(ロンドン)、サマセット・ハウス(同)、カポディモンテ美術館(ナポリ)、サン・マルティーノ美術館(同)、カピトリノ美術館(ローマ)、コロンナ宮殿美術館(同)、国立古代美術館(同)、クエリーニ・スタンパリア美術館(ヴェネツィア)である。

18世紀ヨーロッパ都市の公空間を描いた絵画・版画を調べる過程で、奇異な思いをした事柄がある。18世紀ナポリの都市景観を描いた画家にアントニオ・ジョーリ(Antonio Joli, 1700-1777)という、おそらく日本では知る人のほとんどない人がいる。イタリアのモデナに生まれ、おもにヴェネツィアとナポリで仕事をし、ナポリで没した。この画家の作品を画集で見ていると、所蔵場所として「ナショナル・モーター・ミュージアム National Motor Museum」と「ボーリュウ Beaulieu」という名前が頻出するのである。

ナショナル・モーター・ミュージアムといえば、「国立自動車博物館」のはずである。なぜそこにナポリ景観画があるのか。しかも、「ボーリュウ」というフランス語の名前を持つ場所が英国にあるらしい。その後、ナショナル・モーター・ミュージアムのホームページを調べて

みたところ、この博物館のある敷地には、隣り合って「ボーリュウ・パレスハウス Beaulieu Palace House」という施設と、「ボーリュウ・アベール Beaulieu Abbey」の跡地があり、ともに一般公開されているということがわかった。

「ボーリュウ・アベール」の「アベール」は大修道院の意味である。わたくしは、英国史の知識から、「パレスハウス」の持ち主は、ヘンリー8世王による修道院解散によって修道院の領地をもらい受けることになった家来だろうと推測した。また、ヨーロッパ史の知識から、アントニオ・ジョーリの絵は「グラント・ツアー Grand Tour」の結果、入手したものだろうと推測した。「グラント・ツアー」は、貴族の子弟が古典教育の仕上げとしてイタリア等へ3年間ほど旅したもので、とりわけ18世紀の英国貴族階級のあいだで盛んにおこなわれた。さらに、ジョーリの絵が展示されているとすれば、ナショナル・モーター・ミュージアムではなく、ボーリュウ・パレスハウスと呼ばれる館の方だろうと推測した。これら3つの推測に基づき、わたくしはボーリュウへ向かった。推測はすべて当たっていた。

ボーリュウは、英国南部の海岸近くにあり、ロンドンから鉄道で2時間弱、さらにブロッケンハーストという名の駅からタクシーで20分ほどのところにある。タクシーで5分ほど走ると、「ボーリュウ・エステート(ボーリュウの領地)」の立て札が見え、以後、馬の放牧地や森のなかを走り続ける。広大な領地である。

充実したガイドブック *Beaulieu: Beaulieu Abbey, Palace House, National Motor Museum* によれば、現在のボーリュウのあたりは、13世紀初頭、ジョン王によって、フランスを本拠とするシトー修道会に領地として与えられた。そこには長軸100メートルを超える巨大な修道院教会を中心に修道会関連施設が建てられていた。

1538年、ヘンリー8世王による修道院解散政策により、この修道院施設と領地は王に召し上げられた。同年、こ

これらの施設と 8,000 エーカーの広大な領地は、1,300 ポンドを支払ったトマス・ライオセスリーに下賜された。トマス・ライオセスリーすなわちサウサンプトン伯爵で、大法官・枢密顧問官をつとめた人である。これが現在ボーリユー・エステートを所有するモンタギュー公爵家の祖先である。今「ボーリユー・パレスハウス」と呼ばれている建物は、かつての修道院の門番小屋をカントリーハウス（貴族等の田舎の邸）に転用・改装したものである。

アントニオ・ジョーリによるナポリ景観画を入手した人物は、トマス・ライオセスリーから 7 代後のジョン・ブルーデネルすなわちモンサーマー侯爵 (John Brudenell, Marquis of Monthermer, 1735-70) である。

『グランド・ツアー・データベース』(Adam Matthew Digital, 2012) によれば、ジョンが家庭教師を伴って英国を出立したのは 1751 年、17 歳のときである。パリ滞在を経てローマに到着したのが 5 年後の 1756 年、以後ナポリに 1 年間滞在、そこをベースとしてマルタ島やシチリア島やタラント市などというグランド・ツーリストが従来ほとんど訪れることのなかった場所を訪れた。ジョンがヴェネツィア滞在を経て英国に戻ったのは 1760 年である。大陸旅行は 9 年におよび、費用は 12,600 ポンドを超えた。文字通りの「グランド・ツアー」である。

ジョンは、イタリア滞在中に多数の絵画を購入した。内容は、ティツィアーノやラファエッロの古画や、同時代のグアルディのヴェネツィア景観画などである。アントニオ・ジョーリの絵は、ナポリ滞在中に注文制作させ

たもので、合計 38 点、そのうち 16 点がボーリユー・パレスハウスに所蔵されている。これは、わたくしの知るかぎり、世界最大のジョーリ・コレクションである。

ボーリユー・パレスハウスは、さいわい展示されている絵画をふくめて室内の写真撮影が許されていたので、食堂大広間の壁に掛かっていたジョーリの作品数点を撮影した。ところが、ジョーリの作品を集散的に展示してある家族用食堂は、あいにく入り口近くに進入禁止のロープが張られ、作品に近寄ることができない。しかし、隣の部屋にいた館の人らしい人物に、日本からジョーリの作品を見るためにボーリユーにきた事情を話すと、こころよくロープを外し、警報装置も切り、作品を見て写真撮影することを許してくれた。この人は、ステュアートという名の執事だった。こころより感謝したい。拙文の図版は、パレスハウスの外観と、ジョーリの作品を展示している家族用食堂の様子である。

ちなみに、ボーリユーのナショナル・モーター・ミュージアムは、自動車愛好家だった先代の公爵を記念するための施設が発展したのだという。1890 年代以来の英国の自動車史を通覧できる施設である。300 台を超えるコレクションのなかには、通常写真でしか見ることのない初期のロールスロイスなどが多数ある。スパイ活劇映画 007 シリーズの撮影に使用された車両もすべて傷だらけで展示されているから、興味のある方は訪れて、あわせてご覧になるとよい。



写真 1 ボーリユー・パレスハウス外観（筆者撮影）



写真 2 ボーリユー・パレスハウス家族用食堂（筆者撮影）